

## スポーツ医学界でのジェンダーバイアス

---

- 代表研究者 塚原 由佳  
早稲田大学 スポーツ科学研究センター 招聘研究員
- 共同研究者 鳥居 俊  
早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授
- 共同研究者 武井 聖良  
早稲田大学 発育発達研究所 招聘研究員
- 共同研究者 赤間 高雄  
早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授
- 共同研究者 松本 秀男  
公益財団法人 日本スポーツ医学財団 理事長
- 共同研究者 山澤 文裕  
丸紅株式会社 丸紅健康開発センター 所長
- 共同研究者 Carly Day  
Purdue University Department of Health and Kinesiology  
Head team physician
- 共同研究者 Melissa Novak  
Oregon Health and Science University Department of Family Medicine  
Assistant Professor
- 共同研究者 Irfan Asif  
The University of Alabama at Birmingham School of Medicine  
Department of Family and Community Medicine Professor

### 研究要旨

この度はスポーツ医学界のジェンダーバイアスをテーマとした調査研究を実施した。スポーツの世界は男性優位社会であり、アスリートも男性の方が女性よりも金銭的にも環境的にも恵まれているケースが多い。これはアスリートをサポートする側の環境も同様のことが予測されるが、これまでスポーツドクターを対象としたジェンダーバイアスに対する調査は行われていない。そのため、スポーツドクターの世界でのジェンダーバイアスや女性スポーツドクターが妊娠中や出

---

産後に働くことに対する考えを、スポーツドクターを対象にアンケート調査を実施した。アンケートはアラビア語、スペイン語、フランス語、日本語、中国語、韓国語、タイ語、ノルウェー語、英語、オランダ語、ドイツ語に翻訳をした。合計で1232名からの回答があり、1193名分のデータを解析に進めた。回答者のうち381名が女性であり、回答者の大半はアジア圏と北米圏で勤務しているスポーツドクターであった。本調査結果から男性と比較して女性スポーツドクターは判断を疑問視されたり、敬意に欠ける態度を男性アスリート、女性アスリート、男性コーチ、女性コーチ、自分より学年が上の男性医師、自分より学年が同じまたは下の男性医師、自分より学年が上の女性医師多、男性トレーナー、女性トレーナー、組織・所属機関から有意に多く取られていることが判明した。また、女性スポーツドクターは男性と比較してセクシュアルハラスメントを受けたことがあると回答したものが有意に多い結果となった。さらに、アジア地域で勤務しているスポーツドクターは判断を疑問視されたり、敬意に欠ける態度をヨーロッパで勤務しているものより受けていないと回答した。また、女性が妊娠中や出産後に働くことに抵抗があるものはアジア地域で勤務しているスポーツドクターに多く見られ、女性スポーツドクターが妊娠中や出産後に男性医師と同様に働けると回答したものはアジア圏で少なかった。このことから、世界経済フォーラムが毎年出しているジェンダーギャップのデータ同様に日本を中心とするアジア圏ではスポーツ医学の世界でもジェンダーギャップが高いことがわかった。

---